

## 新潟インキュベーションファンド1号の 投資先 第5号を決定 ～株式会社 UniBioへの出資～

新潟ベンチャーキャピタル(株) (代表取締役：田中富士雄) は、(株)UniBio (バイオテクノロジーに関する研究・開発・関連商品の製造、新潟市) について、新潟インキュベーションファンド1号 (注1) の投資先とすることを決定した。この決定に基づき、2012年11月16日までに3,000万円の出資を行う。

### 1. 投資先の概要

株式会社UniBioは、一過的遺伝子発現法というバイオ技術を用い、植物内で有用タンパク質を生産させ、これを抽出することで、その製品化を目指している。

同社は会社設立以後、海外の植物バイオ関連企業、海外及び国内の大学など、数々の研究開発機関と連携を深めてきた。この連携体制の下、本年2月より試作品開発を開始し、5月には世界で初めて植物におけるEGF (上皮細胞増殖因子) の発現に成功、10月にはその活性と有効性も確認した。EGFは、化粧品や医薬品の原料として広大な市場を形成することが期待されており、今後、製品販売を早期に実現させるべく、製品量産体制の構築をおこなうと共に、引き続き更なる研究開発を進める。

企業名	株式会社UniBio
本社所在地	新潟県新潟市西蒲区巻乙471番地1
新潟事業所	新潟市西区五十嵐2の町8050番地 新潟大学悠久会館 新潟TLO内
設立	2011年3月
代表取締役	結城 洋司
資本金	3,000万円 (※)
事業内容	バイオテクノロジーに関する研究、開発、関連商品の製造

(※) 投資前の資本金は9,090万円であるが、2012年12月3日に減資を行い3,000万円とする。

### 2. 投資決定のポイント

- 世界で初めて、植物におけるEGF (上皮細胞増殖因子) の発現に成功し、その活性も確認したこと。
- 製品化を目指しているEGF (上皮細胞増殖因子) は、アンチエイジング製品での利用拡大が見込め、将来的には医薬品分野での利用も期待できること。
- 植物バイオによる有用タンパク質合成技術は、既存の有用タンパク質培養技術と比較して、コスト、スピード、安全性において圧倒的に優位であること。

### 3. その他

新潟ベンチャーキャピタル(株)は、人材の紹介、営業面での支援、外部からの資金調達において、ハンズオン支援を図っていく予定である。

【お問い合わせ先】 新潟ベンチャーキャピタル株式会社  
代表取締役 田中富士雄  
TEL/FAX: 025-250-6306

## (注1) 新潟インキュベーションファンド1号の概要

- ファンドの名称 : 新潟インキュベーションファンド1号投資事業有限責任組合
- 無限責任組合員 : 新潟ベンチャーキャピタル株式会社
- 投資対象 : 原則、新潟県内に本店を置くアーリーステージのベンチャー企業。ただし、県外本店企業でも、県内経済に大きな影響を有する企業に対しては、投資を検討する。
- 根拠法規 : 投資事業有限責任組合法
- 目標募集総額 : 1,000百万円を予定（新潟県からの資金500百万円を含む）
- 募集期間 : 平成25年3月31日までの出資金払込
- 運用期間 : 平成22年7月から平成32年6月までの期間。ただし、無限責任組合員、有限責任組合員双方の同意により2年延長可能。

## (参考) 過去の投資実績

企業名	事業内容	投資時期・金額
コネクテック ジャパン(株) (妙高市)	小型・薄型化を実現した高密度半導体パッケージの開発・製造	2011年3月 5,000万円
(株)開成 (村上市)	バイオマス処理プラントを導入。温熱等の農業利用を図るとともに、同システムを販売	2011年6月 3,000万円
(株)エバーフリー (新潟市)	関連会社（農業生産法人）や契約農家で栽培した米穀の国内・海外（台湾等）での販売	2011年9月 3,000万円
(株)果実堂 (熊本県阿蘇郡)	子会社の果実堂ファームで有機栽培した「ベビーリーフ（幼葉の野菜）」の販売及び独自での研究開発を実施	2012年2月 3,000万円